



全国学力・学習状況調査結果報告「後期課程」

4月18日(木)に行った全国学力・学習状況調査の主な結果についてお知らせいたします。これは毎年小学校第6学年と中学校第3学年(本校は6年生と9年生)を対象とする悉皆調査です。目的は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることであります。以下に、その結果を示しますので、伊豆市のリーフレットと併せてご覧ください。

教科に関する調査の結果



県・全国平均との比較

英語(話すこと)以外は、県及び全国平均を上回りました。しかし、結果は4月時点における学力・学習状況の一部分にすぎません。一人一人に目を移すと、本調査に取り組んだ生徒それぞれに成果と課題があります。結果に一喜一憂することなく、今後も生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上に努めていきたいと思っております。

【本校と県・全国の平均正答率との比較表】

	県平均との比較	全国平均との比較
国語	◎	◎
数学	◎	◎
英語	◎	◎
英語(話すこと)	—	▲

※平均を+3.0ポイント以上 ◎
平均を0~+2.9ポイント以上 ○
平均を0~-2.9ポイント △
平均を-3.0ポイント以下 ▲



国語

ほとんどの問題で、全国や県の正答率を上回り、大きく全国や県の正答率を上回る問題が10問中、4問ありました。特に選択式、短答式の問題では高い正答率でした。その中で県平均よりやや下回った問題が二つあります。

選択問題で、選択肢の細かな相違を理解、判断し、正答を選ぶことができない解答がありました。また記述問題で三つの条件を満たして書くことができなかったり、文の前後の整合性にバランスを欠いてしまったりする解答もありました。記述問題では、条件を満たして書くことと、自分の考えをしっかりと入れ込んだ文章を書くというのが、今後の本校の課題であると思っております。「書くこと」「表現すること」の二つの活動が重視されますので、「文章を正確に読み理解する」「自分の言葉で正しく表現すること」を中心に据えて指導していきたいと思っております。具体的には、問題文に書かれたことを表面だけの理解ではなく、筆者が主張する根源の部分の読み取りを、テスト時間という状況の中でもできるようにすることが必要です。普段の授業の中に、それに類した状況づくりと練習を取り入れていく必要があると考えます。

数学

ほとんどの問題で、全国や県の正答率を上回っています。ただ、長い文章の問題を読み取れず、図やグラフなどの見た目だけで判断している傾向の生徒が見られます。

正答率が下回った問題に、一次関数のグラフから事象に即した解釈をする問題で、グラフの標題から安易に総費用と判断してしまう生徒や切片の意味の理解が不十分な生徒が多くいました。グラフのもつ意味をしっかりと読み取る力を育てていく必要があります。同じ関数関係の問題で、表から反比例の式を考える問いも、表をしっかりと見ないで比例の式で表す生徒がいました。式、表、グラフの関係をしっかりと捉える力をつける必要があります。

2枚の10円玉を同時に投げるときに2枚表が出る確率を求める問題では、単に硬貨の表、裏の出る確率と考えると1/2と考える生徒がいました。求める場面をよく判断して、的確に答えを導き出す力を育てていく必要があります。

証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題では、共通な角が直角であるため直角三角形の合同条件を使うと考えた生徒がいました。筋道を立てて考えることの意味を再確認することが必要です。

選択式や短答式の問題より、記述式問題の正答率が全国平均を大きく上回っていることは、日ごろの授業で『根拠』を大切にしてきた表れだと思われます。引き続き、数学的な考え方を育てる授業を目指していきたいと考えます。

英語

「聞くこと・読むこと・書くこと」では、大きく全国や県の正答率を上回ったのは、選択問題や穴埋めの問題でした。

「聞くこと」の平均を下回った問題では、「聞くこと」と「書くこと」の統合的な能力を必要とする問題が挙げられます。これらは、2つの能力のどちらかが欠けていても解けない問題であるため、授業では4技能統合の能力の向上を中心に据えて指導していきたいと思えます。

「読むこと」に関する問題では、英文を読んで情報の詳細を理解することができるかどうかをみる問題の正答率が、平均よりやや下回りました。英文を読むとき、正確に情報を読み取ろうとせず、大まかに内容を捉えてしまっているという事がわかったため、今後は、場面に応じて正確に情報を読み取る必要性に言及し、普段の授業から問題演習などしていきたいと思えます。

「書くこと」に関する問題では、穴埋めや質問への応答など、ある程度英語の表現が定まっている文に関しては正答率が高かったですが、「アドバイスをする」・「意見文を書く」など表現の幅が広い問題ほど、正答率が下がるという結果になりました。ただ日本語を英語にするという練習だけではなく、与えられたテーマから、自分の伝えたいことを、既習の事項を活用して英語で表現するという練習をしていく必要があると考えます。

生徒質問紙に関する調査の結果



学校生活

自己肯定感についての質問が平均を下回りました。これは1学期学校評価においても同様でした。こうしたことから、体育の部ではピア・サポート活動を取り入れました。これは、小集団で固定化された既成の人間関係を見直す手立てを取り入れることで、仲間の違った面や良さを認め合い自己肯定感を高めようとするものです。具体的には本校ならではの異学年交流（体育の部縦割り活動）での友だちの良さを見つめるワークシートを用意し、掲示したり伝え合ったりすることで内容の共有をしました。他者から自分の良さを指摘されたり感謝されたりすることは、自分に新たな気づきをもたらす、自己肯定感の醸成に役立つものと考え、こうした活動を今後も意図的に取り入れて参ります。

学習

「将来の夢や目標をもっていますか」では昨年に続き平均を下回りました。自らの生き方を考えるキャリア教育の要素を取り入れた総合的な学習を展開していきます。また地域の皆さまのご協力を仰ぎながら、社会との関わりを考える時間も充実させていきます。また土肥地区のことをより深く知り、郷土愛を高めることができるような総合的な学習の内容について現在検討を進めております。

一日当たりの勉強時間は平均を下回っています。また自分で計画を立てて勉強している割合も同様でした。子どもたちが毎日取り組む自学ノートや学習書について、模範的なノートを共有したり、学習する内容について助言したりするなどしていきます。また面談などの場で個に応じた学習の助言をしていきます。

保護者・地域

地域とのつながりの度合いを問う設問では、平均を大きく上回りました。学校行事では、日頃より保護者の皆さまを始め、地域ぐるみで温かいご指導をいただいております。皆さまのご協力に改めて感謝しております。